



「道徳教育を基盤として魅力ある学校をつくる」

【教育目標】 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子



①当たり前のことを当たり前にする。②当たり前の質を高める。

【目指す学校像 ～魅力ある学校～「今日も充実、明日がたのしみ。『また明日！』」】

- 1 子供にとって：生き生きと学び、達成感を味わい、自尊感情が育つ学校
  - (1) 基本的人権が守られ安心して学ぶことができる。(いじめは絶対許さない！)
  - (2) 個に応じた指導・支援ができる。(特別支援教育のさらなる充実)
  - (3) 授業が充実し、生涯学習の基盤を身に付けることができる。
- 2 保護者・地域にとって：安心して子供を預けられる信頼できる学校
  - (1) 分かる授業を実践し、徳育・知育・体育の基礎基本が定着できる。
  - (2) 感染症対策を確実にを行うとともに、安全・安心で清潔な環境の中で生活できる。
  - (3) 正確な情報を発信するとともに、家庭や地域社会と相互理解・相互協力できる。
- 3 教職員にとって：働きがいのある学校
  - (1) 温かい人間関係をつくり、全教職員が健康で、明るく生き生きと仕事ができる。
  - (2) 互いを尊重し、認め合い、支え合い、高め合いながら組織的に教育活動を展開できる。
  - (3) 教職員個々のマネジメント力を研ぎ、教育活動の充実のため計画的に職務を遂行する。
- 4 人のつながりを大切にして：「チーム田中」
  - (1) 学校とかかわる全ての人が協働し、個性やもち味を発揮した教育を行う。
  - (2) 「子供のために」の思いを共有し、その具現化を目指す教職員・保護者・地域の輪を作る。
  - (3) 心理や福祉、医療、警察、消防、防災等の専門性の高い関係機関との連携を深める。

【目指す児童像】

た・な・か の子  
たくましい子  
なかよくする子  
かしこい子  
のびる子  
こせい豊かな子

【令和 8 年度の取り組み】

- 1 道徳教育・道徳授業の充実、道徳週間の実施 等【市教育課題研究校、文科実践検証協力校】。
- 2 学習指導要領に対応したカリキュラムの実施と本校の実態に沿った指導計画への改善。
- 3 元気アップガイドブックの活用とグッドモーニング 60 分を推進した体育・健康教育の充実。
- 4 自校給食校を活かした食育の推進（人権教育や SDG s を踏まえた食育指導の充実）。
- 5 あおば、ふたば、わかばの交流活動の推進。(10 年先を見据えて今できることに取り組む)
- 6 校内委員会の充実、ホッとルームとの連携を深めた特別支援教育のさらなる充実。
- 7 働き方改革の推進～ICT 機器の活用、定時退勤日、計画年休取得、勤務時間等。
- 8 GIGA スクール構想のさらなる推進（教員と児童の I C T 機器活用能力の向上）。
- 9 H P の充実～学校の情報発信力を高め、保護者・地域との連携を強化。積極的な更新・発信
- 10 働き方改革に即した行事の精選（前例踏襲せず、今必要なものを！破壊なくして創造なし）。
- 11 開設 3 年目の情緒固定学級わかばの円滑な運営。(人員不足をチーム力でカバーを)
- 12 「学校運営協議会（コミュニティスクール）」の充実～地域学校協働本部を見据えて
- 13 地域や行政等と連携した防災教育の推進（11/7 に防災訓練「田中小防災の日」を開催）

【令和 8 年度の研究】

- 1 道徳科の研究《3 年目》【市・指定校、文科・教育実践検証協力校、1/29 に研究発表会開催】
- 2 教育課題に即した O J T 研修をより一層充実させ、教師力の向上を目指す。
- 3 東京都教職員研修センター講座、指導教諭授業公開、都小研連関係の研修会への積極的参加。

## 【教職員としての確認事項】

### 1 子供たちが安心して通える学校づくりのために。

- (1)「いじめは決して許さず、互いに信頼し合い、認め合い、高め合える指導を徹底する。
- (2)「待つ、聴く、受け止める」を常に意識した指導を通して自尊感情・自己肯定感を高める。
- (3)担任・担当の意識と指導力の向上の観点から、要請を受けてからの支援・対応を原則とする。
- (4)個の特性を踏まえた指導をより一層充実させ、特別支援教育を適切に実施する。

### 2 学ぶたのしさ（分かる、知る、できる等のよろこび）を実感できる授業を実践する。

- (1)全ての活動の基盤である健康な心と体を育む。(元気アップ&GM60分の推進)
- (2)教師自身が日々の指導力の向上に努める。(ア,イ,ウについて自校の教員に還元する。)
  - ア 自己申告の授業等、同僚の授業を積極的に参観する。(切磋琢磨、OJT本来の姿)
  - イ 研修フォーム Plant を活用する(月に1回以上のアクセス)。東京都教職員研修センター等の主催・認定する各種・研修へ積極的に(一人1回以上)参加する。
  - ウ 市の小学校教育研究会へ積極的に参加し、学んだことを自校に還元する。

### 3 教職員が健康であるために

- (1)超過勤務月45時間未満にする。遅くても退勤は午後7時までに。土日出勤は事前申請する。
- (2)毎水曜日は定時退勤(17:00まで)とする。水曜日に仕事をせざるを得ない時は、同週の中で振り替えられるが、週案に記載する。年3回の強化月間は、超過勤務者ゼロを目指す。
- (3)全教員が協力し合い、計画的に年休を取得する。長期休業中以外に、全教員が毎学期に1日以上、1日年休(4時間×2日でもよい)、年休40日保持者は、年休15日以上を取得する。
- (4)笑顔で過ごせる快適な職場づくりのために、全教職員が互いを尊重し協力する。
- (5)オーバーワークにならないようお互いが声を掛け合う。
- (6)会議時間を効率よく実施し、自分裁量の時間(ゴールデンタイム)を生み出す。

### 4 子供が納得する生活指導と規律ある生活づくり

- (1)決まりやガイドラインを基盤にして、学校全体で全教員が一貫したぶれない指導を行う。
- (2)いじめ根絶を目指す、いじめは起こるものと意識しながら未然防止と早期発見に務める。
- (3)児童理解をしっかりと行い「いじめ」をしっかりと把握して解決に努める。
- (4)憶測で判断せず、事実を大切に。正確な事実把握に基づく指導を徹底する。
- (5)主任、主幹、管理職への報告・連絡・相談の万事徹底。(情報共有して組織的な対応を)

### 5 子供が学ぶ場としての環境づくり

- (1)子供は動きが活発である。常に最悪の行動を想定することで危険回避につなげる。
- (2)危険を予知するために、精度の高い安全点検(学校内、敷地内、通学路、地域の公園、等)を行って児童や教職員の安全を保障する。(生活安全・交通安全・防災安全)

### 6 保護者・地域との連携づくり

- (1)学校・家庭・地域が、それぞれの役割を認識して子供の教育に責任をもって協働する。
- (2)地域の伝統や文化、特色を大切に、PTAや地域の行事には積極的に関わる。

### 7 田中小学校の教職員(チーム田中の一員)として

- (1)全教職員が教育公務員としての自覚をもち、責任をもって仕事をする。学校は、常に説明責任と結果責任が問われている。週案(前週木曜日提出を原則)への記録・時数管理の徹底。
- (2)教職員は、児童にとって最大の教育環境であることを自覚し、信頼される学校をつくるため、出・退勤時や勤務中の服装、言葉遣い、行動等には最大限の注意を払う。
- (3)服務事故の防止は東京都の大きな課題であることを自覚する。服務事故は学校の信頼を一気に失い、その回復には多くの時間と労力が必要となる。守秘義務を徹底する。